

創立120周年記念館(桐陰会館)設計プロポーザルの

説明会開催のお知らせ

筑波大学附属高等学校・中学校では2008年に創立120周年を迎え、教育環境の一層の拡充を目的に在校生保護者、卒業生等より寄付金を募っているところであり、平成23年12月末時点で約1億9千万円のご厚志を賜りましたことにお礼申し上げます。現在これらの資金をもとに、来年秋の竣工を目標として創立120周年記念館(桐陰会館)を建設するため、附属高等学校教員、附属中学校教員、高等学校後援会、中学校向上会、桐陰同窓会の代表を中心に創立120周年記念館(桐陰会館)建設委員会を組織し、施設の考え方を検討してまいりました。

その結果、創立120周年記念館(桐陰会館)の建設趣旨として、生徒、保護者、学校、クラブ、卒業生の縦横のつながりを創り、「附属」らしい伝統・歴史との出会いを可能とするような施設とすることが相応しいとの考え方で一致いたしました。

つきましては、今後の設計、工事においても、この趣旨を最大限活かすため、設計プロポーザル方式により設計提案を求め、最優秀案提案者を創立120周年記念館(桐陰会館)の基本設計の実施候補者として、委員会として事業主体の筑波大学に推薦する方向で考えております。参加有資格者の幅広いご参加と、附属高等学校・中学校関係者の皆様のご理解、ご支援を、何卒宜しくお願い申し上げます。

なお、下記のような内容で、本設計プロポーザルの募集についての説明会を行う予定ですので、できるだけ多くの方々に足を運んで頂ければ幸いです。

- 日時 平成24年4月22日(日)、14時より
- 場所 筑波大学附属高等学校 3階会議室

平成24年4月吉日

120周年記念館(仮称:桐陰会館)建設委員会

委員長 筑波大学附属高等学校 校長 茂呂雄二

副委員長 筑波大学附属中学校 校長 藤堂良明

筑波大学附属高等学校 副校長 妻木貴雄

筑波大学附属中学校 副校長 館 潤二

高等学校後援会会長

中学校向上会会長

桐陰同窓会代表幹事 下坂秀樹

桐陰同窓会、東京芸術大学名誉教授 片山和俊

桐陰同窓会、東京大学教授 野城智也



【写真:筑波大学附属中学校ホームページより】

① 計画内容

1. 計画施設名

創立 120 周年記念館（桐陰会館）

2. 主催者

創立 120 周年記念館（桐陰会館）建設委員会（以下「建設委員会」）

3. 計画の概要

(1) 建築への要望事項

1) 「附属らしさ」の表現

2) 交流の場の創出

生徒、保護者、学校、クラブ、卒業生の縦横のつながり。

3) 伝統、歴史との出会い

(2) 敷地条件

1) 所在地 東京都文京区大塚 1-9-1

2) 敷地面積 51,793.7㎡（うち本施設で使用する部分は附属中学校プール跡地の約1,350㎡（約45m×約30m）

3) 法規制及び自治体の条例・要綱、地盤性状等についての詳細は、説明会当日に説明を加えます。

(3) 建築計画概要

1) 用途

学校（筑波大学附属高等学校・附属中学校の教育活動及び学校・同窓会等の交流施設）

2) 構造、階数

1階建てを基本とし2階建ても妨げないものとする。（構造は、法規制及び騒音・振動等の利用上の問題が生じない構造形式とする。なお、埋蔵物文化財の関係からは、なるべく軽い構造が望まれる。）

3) 延床面積

4) の要求性能を満たし、800㎡以下とする。

4) 施設計画

a) 300人収容の講義室（多目的ホール、小講堂）

・全員が簡易な椅子により着席し、講義を受けることを想定する。

・可動間仕切りでほぼ2等分に分割できるようにすること。

b) 資料閲覧室（約100㎡）

・高等学校・中学校保管資料の保存及び閲覧に使用する。

c) 桐陰同窓会事務室（約40㎡）

d) 会議室（約30㎡）

・15人用会議室。

e) 和室（8畳）

- ・資料展示、茶道等にも使用可能なように和室を一部屋設ける。主なる開口部を共用部に接するものとし、共用部から内部をできるだけ容易に目視できるものとする（茶会の見学を想定）。

- ・事務室と共用の給湯室を隣接させ設置すること。

f) トイレ

- ・用途を理解し、多目的トイレ(1)、男子(大2小3)、女子(4)を計画すること。

g) 倉庫

- ・折畳可能椅子300、折畳可能机20を収納。

h) 履き替え線について（靴脱ぎ場及び靴・スリッパ保管場所）

- ・履き替え線を明確に計画すること。

- ・靴・スリッパの保管場所は50人分程度とし、不足分はビニール袋にて携行する方式とする。

i) 入口は道路側（外部者、同窓会使用）、グラウンド側（学校、生徒使用）の2箇所とする。

- ・車の引き込みは無し。

- ・休日・夜間等のセキュリティ対策について考え方を提示すること。

j) 空調設備

- ・居室については冷暖房設備を設置する。

4) 建設予算 建築・設備・外構で2億円とする。（埋蔵文化財調査費、設計費用は含まない）

5) 竣工目標時期 平成25年9月1日（附属創立125周年に間に合うように）

（注）本内容に記載された計画概要は、手続き開始の掲示時点でのものであり、今後変更される可能性があります。



写真：筑波大学附属高等学校ホームページより

② 参加資格

【参加資格の主旨としては、参加者本人の資格・権利・能力によって、本件の全ての設計・監理に関する作業・役割・届け出を、遂行・完了させることができることであり、事業主体の筑波大学や附属高等学校・附属中学校のサポート役として、当初の予定建設費の試算、プロジェクト全体の工程管理、コスト管理も中心的な役割を担うものとする。】

(1) 設計プロポーザルの提出者に要求される資格

基本的に、設計プロポーザルの提出者は、1) から3) に掲げる資格を満たしている単体の一級建築士事務所の代表者であること。

- 1) 本計画の趣旨の理解に関する観点から、プロポーザルの提出者本人が、東京教育大学附属高等学校・中学校または筑波大学附属高等学校・中学校の卒業生であること。
- 2) 一級建築士としての実務経験に関し10年以上を有しており、自らの設計により竣工した建築物が8以上あること。(下請けによる業務の実績は含まない)
なお、設計共同体(JV)による参加は認めない。
- 3) 一級建築設計事務所を主宰し、自らの権利において法規上の本計画設計者となり得る資格を有すること。
- 4) 上記の1) から3) の内容について該当しない場合で、参加の希望を持つ者は、説明会の中で事務局側に必ず申し出ること。そのとき、上記の内容に該当する経験、能力や対応方法について、説明の責任があるものとする。参加可否については、選定委員の判断に拠るものとする。

*参加者側から示された資格に疑義が生じた場合、建設委員会の指示に従うこと。

(2) 業務実施者について

- 1) 今回の設計プロポーザルの募集は、創立120周年記念館(桐蔭会館)の基本設計者を選定するものである。今後、筑波大学との協議によって、様々な業務形態があり得るが、設計面のリーダーとして主体的に取り組んで頂くことになる。
- 2) 設計提案書の提出者を総括責任者とする。総括責任者は今後想定される設計及び監理業務について、意匠、構造、設備設計等業務を総括する。なお、意匠については再委託を認めない。
- 3) 今後想定される設計及び監理業務完了までの間、総括責任者及び構造担当(もしくは専門分野)の主任技術者については、変更を認めない。ただし、変更の理由及び変更予定者について、当建設委員会がやむを得ないと認めた場合はこの限りではない。

■説明会事務局

岡 雄一、吉田 敏(桐蔭同窓会)

【連絡先】担当：吉田 yoshida-satoshi@aiit.ac.jp、080-5054-1590